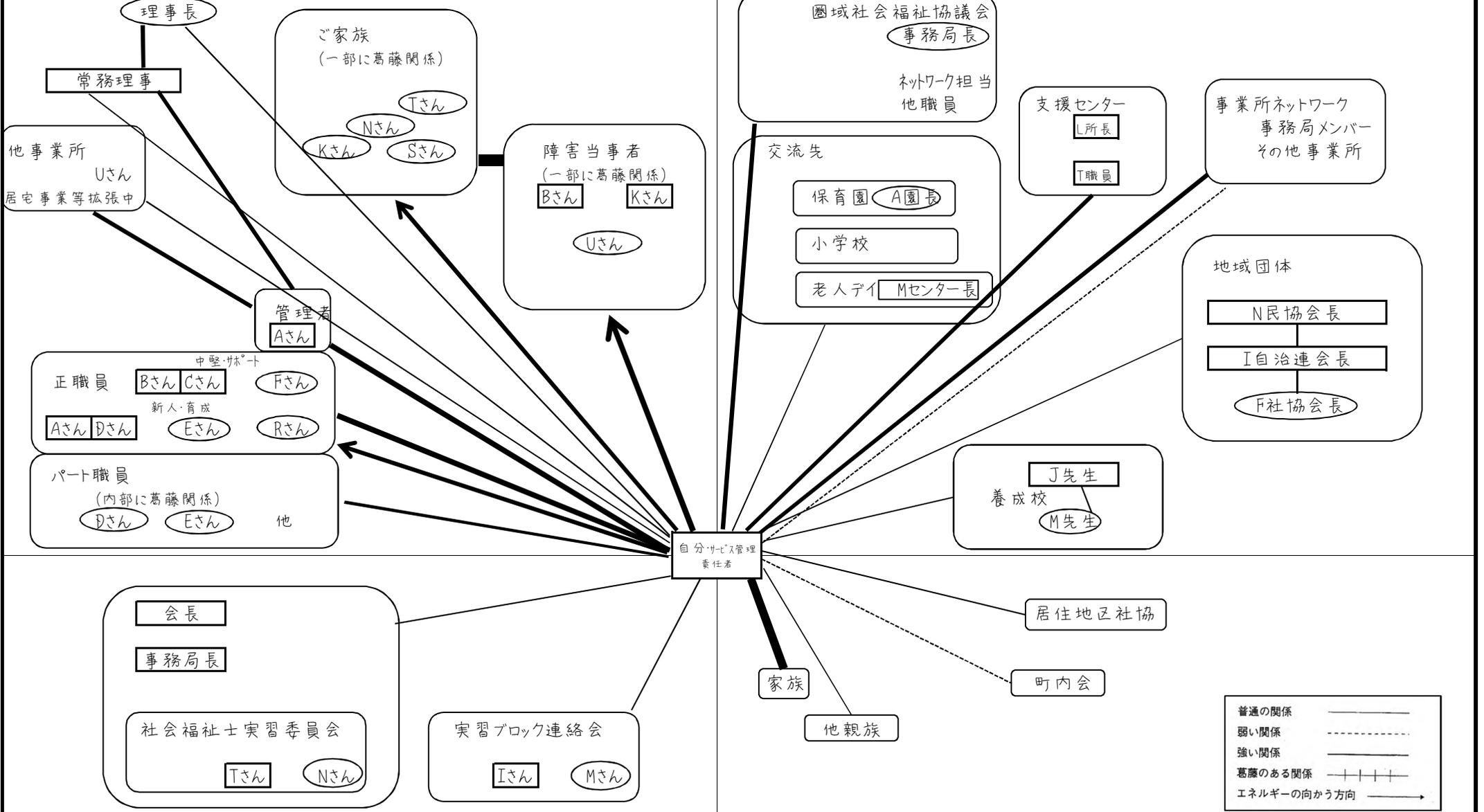


組織内

組織外



職能団体

(演習用見本のための架空のケースを使用しています)

インフォーマル

5 ビジュアル・アセスメントツールの活用

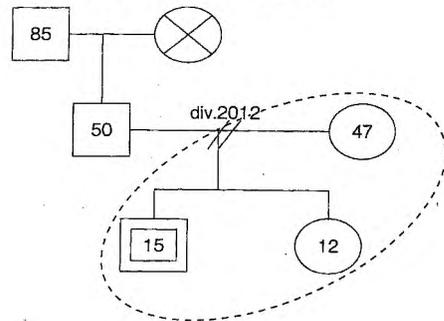
ビジュアル・アセスメントツールとは、目に見える形のアセスメントの道具であり、様々なマップを意味する。利用者と援助者がともに作成することにより、利用者は自らのおかれている状況を客観視する機会を得て、援助者と協働で問題解決に取り組むことができる。また、利用者と援助者とのコミュニケーションツールでもある。主としてジェノグラムとエコマップを活用することが多い。

1) ジェノグラムの書き方

ジェノグラムとは、何世代かにわたる家族の関係を把握するためのツールであり、家族システムの問題や、家族に潜む弱さを目に見える形で把握することができる。

ジェノグラムでは、男性を□、女性を○、性別不明な人は△とする。それぞれの関係性を実線や点線でつないで表す。また、結婚 (m.)、離婚 (div.)、死亡 (dec.) などのイニシャルと、出生を含む各イベントの年代を記入する。子どもは出生順に左から書き足していき、同居家族は点線で囲む。

図5 ジェノグラムの実際 (筆者作成)

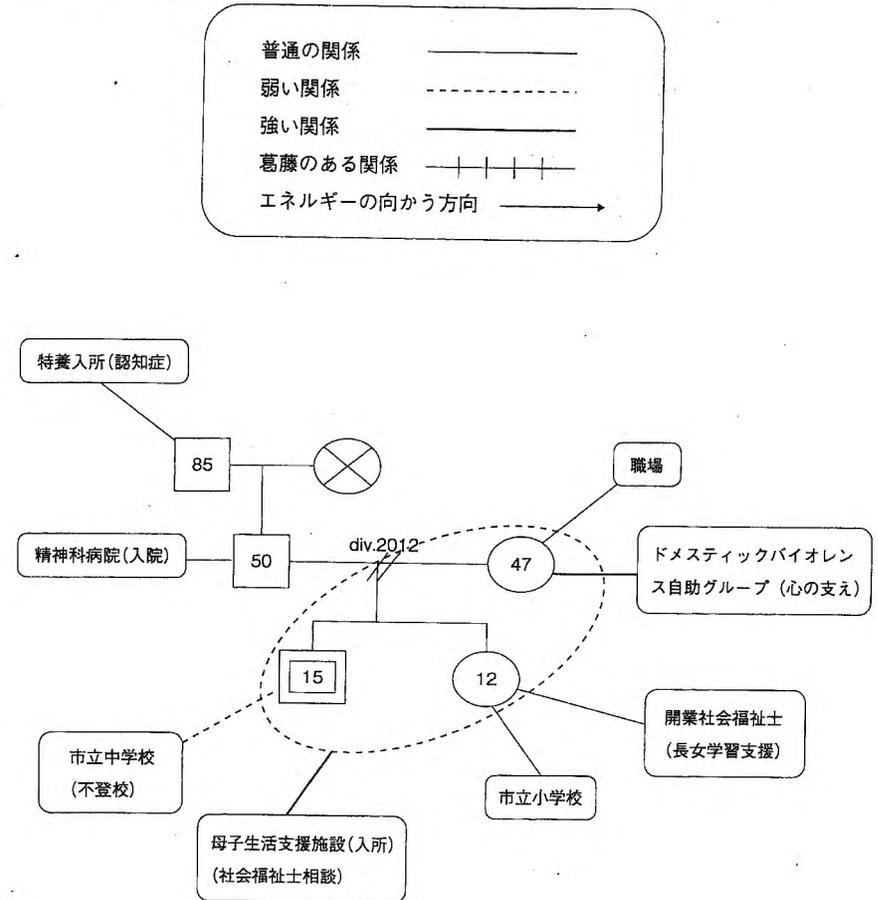


2) エコマップの書き方

エコマップは、利用者やその家族、社会環境との関係を、円や数種類の線により図式化する方法である。利用者や家族を取り囲む社会資源にはどのようなものがあるかという情報が得られるだけでなく、それぞれの社会資源との関係性が視覚的に把握できる。

エコマップの書き方は、中央に利用者や家族のジェノグラムを書き、関係する社会資源で周りを取り囲む。その際、それぞれの社会資源と家族成員がどのような関係性を持っているのかを、数種類の線で結ぶことにより表していく。関係線の種類は以下のとおりである。

図6 エコマップの実際 (筆者作成)



おわりに

私たちは、日常生活で常に会話をを行う。だからといって必ずしも面接が上手であるとはかぎらない。それと同じように、日常生活で常に文章を書くが、それは上手な記録が書けることとイコールではない。そこには質的な違いが存在するからだ。しかしながら、日々、意識的に記録作成に取り組むことが、よい記録を書くための鍵となる。

そして、よい記録は良質な実践研究の素材になる。効果的な実践研究は、現場で直面する課題解決の方向性を指し示す。現場で直面する課題を解決することは、利用者の最善の利益の保障に結びつく。

実践研究を行うための記録を書くために、明日からできることは何かを考えながら、日々の記録作成に取り組んでいきたいものである。